

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念の他に、グループホーム独自の理念を掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を玄関とリビングに掲示し、実現に向けて取り組んでいる。	○	新人職員には、改めて理念を理解して貰う場を設けたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットに理念を記載するとともに、2か月に1回発行している「えんじゅ便り」を活用し、運営推進会議メンバーに発行し、理念を理解して頂けるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出時に出会ったときは、挨拶をするよう心掛けていますが、気軽に立ち寄ってもらえるまでには至っていない。	○	近所の人気軽に立ち寄ってもらえるような環境を作りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流はまだ少ないが、運営推進会議時に、民生委員や消防団に参加頂き、情報提供の協力を頂いている。	○	老人会にも参加頂けないか声を掛けているところである。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元中学校の職場体験学習の場として、生徒達の介護体験を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	実施した自己評価・外部評価の結果を踏まえ、改善案を出し、全員で取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームでの活動状況等を報告している。また出席者からは運営に関しての質問や意見、更に地域の情報などを頂いている。	○	老人会にも参加して頂けるよう、声を掛けていくところである。また、テーマによっては地域のケアマネや役場の職員にも参加をお願いしようと思っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者に、毎月1回利用者の状況を提出している。また事故報告書は随時提出している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を活用している方はいないが、制度を理解するために管理者が研修を受講している。今後勉強会を開き、職員の理解を深めていく予定。	○	今後、勉強会を開き、職員の理解を深めていく予定。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、学ぶ機会を持っていないが、事業所内において虐待が見過ごされないよう利用者の状態観察、職員とのコミュニケーションを図り注意を払っている。	○	学ぶ機会を持ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆっくりと丁寧にわかりやすい説明を心がけています。また利用者や家族等の不安や疑問点には十分に説明をし理解、納得して頂けるよう心掛けている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や苦情等を話しやすい環境づくりを心掛けている。また直接は話せない方のために玄関先に意見箱を設置している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には利用者の生活状況や健康状態等を報告している。また1ヶ月に1回、家族の方へ、担当職員から手紙にて報告している。内容については家族が知りたい点を考慮し報告している。	○ お手紙の内容がマンネリ化しているため、どんなことを書いたらいいのか話し合う必要がある。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関しての申し出窓口を明確にするとともに、気軽に申し出られるよう意見箱を設置している。また第三者委員会の設置、県適正委員会のポスターを掲示し安心して意見等を表せる機会を設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は職員の要望や意見を聞くよう心がけている。又、個別に話を聞く機会を設け、出された意見・要望については検討し反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜勤者は、日中の利用者の状況が把握できてから、入れるようにシフトを工夫している。	○ 勤務時間については、現在、変更の必要を感じないが、入居者の状況によって、変更していく必要があると思っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限に抑えているが、やむを得ず異動・離職する場合には利用者と新しく配置された職員との信頼関係を築く事を優先している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を定期的に行っている。また、外部研修も計画的に参加し、研修した内容については報告書を作成している。	○ 計画的に実施していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議のメンバーに地域のグループホームも参加しており相互に情報交流ができる機会を持っている。また県のグループホーム協会に入会し研修会に参加するとともに情報交流の場としても活用している。	○ 今後も情報交換や協力体制をしいていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は休憩時間、休憩場所を配慮している。またグループホームだけでなく法人内の他職種の職員との交流、親睦の場をつくり、気分転換を図れる機会をつくっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員には外部研修への参加を推奨したり、資格取得に向けた支援を行っている。特に資格を取得した職員には職能評価を行うとともに職場内で活かせる労働環境作りに努めている。	○ 今後も研修を奨励し、職場の親睦を図り、チームワークの向上を図りたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学、相談に来られた際には、本人の現在の状況、今後の希望等をゆっくりと話して頂ける雰囲気作りに努めている。状況を正確に把握した上で複数の選択肢の中から本人にとって最善の選択ができるよう努めています。	○ 利用に至るまでに、本人から話を聞く時間を今までより多くとろうと思っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者とは別に家族の希望や相談を聴く機会を持ち、できる限り対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を十分に把握した上で、現時点で事業所として何ができるか何をすべきかを考え、必要に応じて他のサービス情報を提供したり、他のサービス機関につなげる対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要に応じて、通所サービスからの利用も考えている。また入居当初には家族や知人の面会の協力をいただくなど本人が安心して生活が送れるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔のことや、調理方法など、日常生活の中で、わからないことがあったときなど、教えて貰う場面をつくるなどの工夫をしている。	○	今まで以上に寄り添うケアができるようになるためにコミュニケーション方法などを学ぶ必要があると考えている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者に担当の職員をつけ、お手紙などで、状況をお知らせし、ケアに対する希望があれば、話して下さいとお手紙に書いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に1度はお手紙にて状況をお知らせするようにしている。また、面会時には飲み物や食事(希望時)を出し、ゆっくりした時間が過ごせるよう配慮している。	○	家族の方へ、手紙を今後継続していきたい。手紙の内容の検討も必要と考えている。行事への参加を積極的に呼びかけたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などに制限は設けていない。またかかりつけ医は家族とも相談しながら、継続して受診している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間で、談笑する時間が持てるよう、職員が間に入り、調整役を行っている。	○	利用者と職員がもっと一緒に時間を過ごせるよう時間を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、併設のサービスを利用している方がおられ、職員は会えば声をかけ挨拶をし又、状況を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、声をかけ本人がどのような生活を希望されているか、言葉や表情等で確認するよう努めている。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から情報を得るように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族などから、生活歴を聞き把握している。入居後もプライバシーに配慮しながら普段の生活の中で話された情報を職員全体で共有し、現在のサービスの内容に活かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の一日の生活パターンを把握して、本人がやりたいこと、できることに視点を置きその人の全体像の把握に努めている。	○	センター方式をもっとうまく活用したいと考えている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には、面会時などに、思いや意見を聞き、介護計画作成者と担当職員が中心となりカンファレンスを行い介護計画の作成に活かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日頃より利用者の状態の変化等を観察し、3ヶ月ごとに見直すほか、必要に応じて介護計画を見直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに食事摂取量・水分摂取量・排泄状況などチェックし、利用者の一日の状態や様子を介護記録にまとめている。	○	記録の書き方など、改善すべき点があり、統一できるようミーティングを行いたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診や、医療連携体制による訪問看護、外泊中の他のサービスの利用など、臨機応変に対応ができるよう心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に地域の民生委員、地域包括支援センター所長に参加して頂き、情報提供や、小学校など地域との交流の橋渡しなどをして頂いている。また隣接の消防署には避難訓練に来て頂いたり、マニュアルなどの作成にアドバイスを頂いている。	○	ボランティアなど受け入れができるように働きかけをしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望に応じて、町の図書館に行ったり、訪問理美容を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加を求めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の他、入居前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあるなど利用者や家族の希望に添うよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の人の医療に熱心で、利用者や家族、職員の話をよく聴いてくれる医師が地域の中に有り、何人か受診し相談に乗って貰っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1回協力医療機関から看護師の訪問があり、一人ひとりの健康管理について相談できる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を、医療機関に提供し、入院中は職員が見舞いに行くなど精神的安定を図っている。退院については、医療機関・家族とも情報交換をしながら、スムーズな退院ができています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、本人や家族の意向を十分に確認したうえで、職員、医師、看護師等を交えて話し合いを行い、希望にできるだけそえるように努めている。	○	重度化してから話し合うことが多いため、早い段階から話し合う必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最後が迎えられるよう随時意志を確認しながら取り組んでいる。職員の不安軽減のためにも急変時にはすぐ対応して頂けるよう医療機関とも密に連携を図っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人がグループホームから別の居所に移り住む場合、環境が大きく変わることで心身のダメージを受けることのないように、移り住む先の関係者に対して、必要な情報を提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全体で入居者のプライドを傷つけないような言葉遣い、介護に配慮している。また個人記録等の書類については施錠できる場所での管理を徹底している。入居の際には居室ネームプレートの有無について確認をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側で決めたことを押しつけるのではなく、利用者が自分で決める事柄を多く持てる機会を作るよう努めている。(食べたいもの、飲みたいもの、入浴の時間、行事への参加など)	○ もっと希望などが出るよう機会を多くしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある自由な生活を送って頂けるよう心掛けている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望に応じて理容、美容師に来てもらい、カットや毛染め、パーマをあてるなど希望に合わせたその人らしい整髪をしている。またその日着る服についても自分で選んでもらうよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で採れた野菜の収穫を一緒にしたり、食材に使用したり、職員も同じテーブルで食べるなど会話のある楽しい雰囲気をつくっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居時や面会時に、本人が好む嗜好品を聞き、体調に合わせて提供している。施設内禁煙であるため、たばこは提供していない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターン、習慣を把握し、声かけをトイレ誘導している。オムツの種類も一人ひとり考え、最低限の利用にとどめている。	○	便秘にならないよう、食事面でもっと工夫していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数、入浴時間についてはできるだけ本人の希望に合わせている。体調面や安全面に配慮しながら入浴を楽しんで頂けるよう配慮して。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は個別に体調に応じて休息がとれるよう支援している。夜間にぐっすり睡眠できるよう一日の生活リズムを整えるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや家事、花や野菜づくりなど本人の得意な分野で、経験や知識を発揮して楽しんでいただける場面をつくっている。	○	利用者によってはできることがもっとあると思うので、利用者の持つ力の把握に努めたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、利用者によって所持している利用者と預かっている利用者に分かれている。買い物に行った時や受診時など、自分でお金の支払いをして頂けるよう配慮している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が同行しての散歩や、敷地内を一人で散歩に行っている利用者もいる。また、買い物の希望があれば一緒に行ったりとできるだけ配慮している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者から行きたい場所を聞いて、外出時の参考にしていく。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があった場合は、支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	門の開閉時間はあるが、面会時間の制限はないと伝えている。家族や利用者がゆっくりとした時間が過ごせるよう、訪問時には椅子を運んだり、飲み物を出すなどの配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みを行っており、身体拘束についてのマニュアルの作成している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵はかけていない。防犯の意味から21時半から6時までは、表玄関の鍵は閉めている。居室は利用者が鍵をかけた、不在時に鍵をかけることはある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら、注意して、利用者の所在や様子を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬については、飲み忘れの可能性があり、家族の希望もあり、お預かりしている。ナイフなどについては、利用者の状態によって所持していたり、持って帰って貰ったりしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やひやりはっと報告書にて報告している。事故に関しては、月に1回町に報告書を提出している。	○	勉強会で、報告書の書き方やどんなときに報告するべきかを学び、徹底していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日本赤十字社の職員を招き、職員、利用者も参加し緊急時の対応について学習している。	○	定期的に、応急処置や初期対応の訓練を行っていきたいと考えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災についての避難訓練は、消防署を交えて年2回行っている。また地震や水害についてはマニュアルを作成している。	○	地震についての勉強会やマニュアルの周知、非常食の購入などを随時行っていく予定である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に、リスクについての説明を行っている。また、介護計画にリスク回避についての項目を入れている。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の観察やバイタルチェック及び職員の情報交換にて、利用者の状態把握に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個人の病歴・服用している薬を確認している。症状の変化があれば主治医に報告するようにしている。	○	今後、服薬に関することを勉強する機会また、職員がどれだけ知っているか確認する機会を設けたいと考えている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	チェック表を確認しながら、排便状況を把握している。	○	排泄が自立で、忘れてしまう利用者に対しての確認方法が今後の課題である。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者に応じて、口腔ケアの声かけや介助を行っている。	○	よだれが多い人に関して、口腔ケアをどう行っていくのか、勉強会をしたいと思っておる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好については、入居時や面会時に確認している。食事量、水分量については、日々チェックを行い、声かけや介助などの支援を行っている。	○	水分の摂取を嫌がる利用者があり、対応方法を検討中である。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人として作成したマニュアルがあり、流行の兆しのあるものに関しては、早めに対応をとるように心掛けている。それ以外に関しても職員の周知徹底を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や皿などは乾燥機に入れて乾燥させ、食材は日付管理を行い、新鮮で安全な食事を提供できるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	デイサービスと併設であるため、施設的な雰囲気はあるが、木造で、周りには植物を植えたりと入りやすい工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどには季節に応じた飾り付けや花を飾ったり、季節の行事などを大事にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファがあったり、玄関や中庭に椅子を置いたり、たたみの場所があったりと居場所が確保できるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、空き部屋があるので、居室を選んで頂いている。また、使い慣れたものを持ってきて頂けるよう勧めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	施設内24時間換気を行っている。室内の温度調整は、温度計を置き、職員の体感温度に合わせず、常に気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、ゆくゆくは車いすになっても生活できるよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の残っている力を見極め、利用者が自らやりたいことが行えるような環境作りを心掛けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに観葉植物や朝顔、野菜などを植え、季節が感じられるようにしている。また、中庭に洗濯物が干せるよう、物干しスペースを作っている。	○	植物や野菜作りなどにももっと参加して頂けるようにしたいと思っている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)